

堂地東(どうぢひがし)遺跡

調査期間:昭和55~58年(1980~83)

調査面積:約37000m²

立地:木花台地解析谷に面した台地上

学内の位置:体育館~サークル棟周辺

発見された遺構と遺物・年代

- ・縄文時代早期のキャンプ地(集石5)。
- ・弥生時代中期~後期の集落(竪穴住居跡20)。
- ・古代・中世集落(掘立柱建物10)。
- ・中世石塔群(石塔39)
- ・近世墓(土壌墓14)

展示資料:弥生時代集落関連遺物

■弥生時代集落の概要

およそ150×120mの範囲に、竪穴住居跡20棟が確認された。そのうち、14棟は住居内に間仕切りをもつ花弁状住居。住居跡は円形基調と方形基調のものがある。円形住居跡は直径6・7m、方形住居跡は一辺5・6m程度が多い。2~6本程度の柱上に上屋を組み上げ、カヤなどで屋根を葺いた構造と推測される。

出土した土器からみると、この集落は前1世紀後半から1世紀中葉頃と、3世紀前半の短期間の2時期に営まれたことがわかる。集落に人びともっとも集中したのは1世紀前半頃で、8棟前後の住居に30人ほどが居住したとみられる。この時代はコメつくりを基盤とする農耕社会。



調査地の空撮写真



7号竪穴住居跡



各種の弥生土器



磨製石斧



磨製石鏃

■展示遺物

●弥生土器

各種の壺形土器(短頸・直口・広口)と中型・小型の甕形土器、および小型の鉢形土器(弥生時代後期前葉~後期終末期)。壺は貯蔵、甕は煮沸に使用されることが多い。広口壺の一つには木蓋を留めるための紐を通す孔がある。土器は粘土紐巻き上げ技法で作られている。壺・甕の底部は平底。焼成は野焼き。

●石器

- ・磨製石斧:樹木伐採・加工用石器
刃部を残す破片(硬質砂岩か)
- ・磨製石鏃:頁岩製。磨ってつくった矢尻